□書　評□

医療と教育の刷新を求めて

聖路加看護大学学長　日野原重明著

東京大学医科学研究所内科
谷　　荘吉

あれから20年という歳月が流れた．日野原先生から内科学の手ほどきを受けたのは，私が当時医学部を卒業したての，何ごとも自分の血肉に吸収しようとしていたインターン時代のことである．それは，日本でのプライマリー・ケア教育の発端ともいえる有意義な1年間であった．私が臨床医学の修練に第一歩を踏み出したときに，先生から直接に教えを受けることができたことは大変有難いことだと考えている．先生はあの頃，すでに優れた臨床家であり，また熱心な教育者でもあった．内科病棟への配置は僅か3カ月間に過ぎなかったが，その頃，病棟廊下のロビーで毎朝行われていたワードカンファランスやベッドサイドで先生からおききした教訓は，20年たった今日でもなお忘れることなく，私の脳裏にあざやかに焼きついているのである．内科診療における基本的な考え方，臨床医学の研究のあり方，その実践方法，臨床医のとるべき態度などについて，先生の説かれる根本精神を私はこの20年間，自分なりに実行してきたつもりでいる．

●寄せ集めの論文集ではない

日野原先生のそうした医学領域全般にわたる基本理念とその実践とを学ぶのに最も適した本が医学書院から最近発行された．先生が今日まで提唱し，実践してこられた内容が手にとるようによく解るのである．

先生の書かれた「はしがき」をみると，

「私は時に触れ，医学・看護やその教育，医療従事者の役割，さらに日本の医療システムについて，また文明について，現状を分析し，将来を展望して変革されなければならない幾多の問題点について意見を述べてきた．

ここに一冊の本としてまとめた内容は，過去約15年間に私がいろいろの機会に講演をし，あるいは寄稿したものである．

その間に私が目指し，実践してきたことが，この中にほぼ納められているように思う．」と記されている．しかし，本書は，多数の論文をただ漠然と寄せ集めた論文集ではない．あたかも，あらかじめ十分に構想を練り，1冊の著書として意識的に書きあげられたのではないかとさえ思えるほど，その構成は整然としており，論旨は実に明晰で，終始一貫しているのである．

●医療のあり方を求めるユニークな考え

本書には，健康の自己管理，POシステム，プライマリー・ケア，習慣病などについて，新しい医療のあり方を求める先生のユニークなお考えが豊富にもりこまれている．とくに習慣病については，「本書の中での私の最も新しい論文は……，『習慣病』という題目で書かれたものであり，これは今日私が到達しているものの考え方であり，医学が行動科学と手を結ばなければならないという私の主張の上に立った考えである．」と述べておられるように，これは注目すべき新しい概念である．

また，先生は，「内科医としての長年の生涯の中で，このPOシステムほど私に強烈な影響を与えたものはない．これにより，これまでの私の医療に対する考え方やその方法は大きく変えさせられた．」と書いておられる．このPOシステムに初めて気付かれたとき，先生は直ちに渡米され，その現場を視察，帰国してそれをすぐ実行された．「POS」の著書を書かれると同時に，その啓蒙活動に力を注いでおられる．先生は単なる理論家や評論家では決してない．先生の提唱は卓上の空論ではなく，先生御自身がそれを着々と実行に移しておられる．その頂点がライフプランニングセンターの活動であろう．そして，先生の最終目標は国民の健康と福利にある．

●先覚的指導者の精神

日本全国の医療関係者の全ての人人に，医師も看護婦も，医学者も大学教授も，ありとあらゆる人々に本書を読んでもらいたいと私は思う．そして，各人がそれぞれの実践の現場で，先生の御提唱を実行してゆくならば，日本医療の現状は種々の面で大いに刷新され，格段の進歩を遂げるに違いない．

日野原先生は日本の医療と教育における偉大な先覚的指導者のひとりであると私は信じて止まない．

本書にはその先生の熱烈な精神が生き生きと脈うっていると感ずるのである．

A5　頁300　図15　1979　¥1,600
〒200　医学書院刊

©IGAKU-SHOIN Ltd, 2012

2026/10/09 11:07:19